

Yearly Digest

2024/4 - 2025/3

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団 2024年度の主な事業活動の実績

チャレンジ支援事業

ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞

第16回スポーツチャレンジ賞の表彰式を開催

スポーツ振興において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した「縁の下の力持ち」（人物・団体）を奨励する表彰制度です。第16回スポーツチャレンジ賞には義足エンジニアの遠藤謙氏を選出し、5月28日、東京・お茶の水で表彰式を開催しました。

また、第17回スポーツチャレンジ賞の選考委員会を12月7日、1月25・26日に行いましたが、今回は「該当なし」という結果となりました。

●後援：公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本バラスポーツ協会日本パラリンピック委員会



BACK STORIES

受賞者の功績やチャレンジの足跡を紹介するスペシャルコンテンツ「BACK STORIES」を当財団ホームページに掲載

チャレンジ支援事業

スポーツチャレンジ助成

体験助成15件・研究助成15件のチャレンジャーを支援

「スポーツを通じて世界に羽ばたく逞しい人材の育成」を目的とする本事業は、2024年度（第18期）チャレンジャーとして30名を助成。成長プロセスを重視する独自のサポートプログラムによって、それぞれの夢・目標の実現を支援しました。

半期を終えた10月には、第2四半期までのチャレンジを振り返る「中間報告会」を4回に分けて実施。審査委員からの激励や助言を受けて、下半期の活動につなげました。

また、年度末の3月15～16日には、第18期生・第19期生が一堂に会する「第18回YMFSスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」（東京・日本青年館）を開催。成果報告会や修了式等の各種式典に加え、チャレンジャーOGで現・審査委員の小島智子氏による特別講演や、国立競技場見学ツアーも実施し、分野や領域を超えた「つながりの価値」を実感しながら、笑顔のあふれる2日間となりました。



年度末の成果報告会。すべてのチャレンジャーが、チャレンジの軌跡とその成果を報告



第19期生30名を代表して、体験助成の古澤陸さん（レスリング競技）が力強く決意を表明



第18期生も、相互刺激と与え合いながら大きな成長を遂げた



日本青年館で2日間にわたって開かれた「YMFSスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」

社会活性化への寄与を目的に各種情報を発信

スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会の活性化に寄与するため、事業活動などに関する情報を広く発信しています。2024年度も当財団ホームページの運営をはじめ、チャレンジ支援事業とスポーツ体験促進事業のそれぞれの情報発信として、ニュースリリース発行（計11件）、YMFS通信配信（約900か所）、年間事業報告書発行（900部）、調査研究報告書発行（500部）等を行いました。

情報発信



ホームページ



YMFS通信



ニュースリリース

掲載情報の詳細については、ウェブサイトをご覧ください。

www.ymfs.jp



スポーツ体験促進事業

ジュニアヨットスクール葉山

通常講習に加え、総合的な視点で指導プログラムを実施

心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成のために、神奈川県葉山町を拠点として通年型のヨットスクール「ジュニアヨットスクール葉山」を運営しています。2024年度は、9名のスクール生を対象に毎月2～3回の指導を行いました。

これまで同様、セーリング指導に加え、葉山周辺で開かれる大会に積極的に参加するなど、より総合的な視点での指導プログラムを実施しました。また、水辺の安全講習会や、津波を想定した避難訓練など、自分の身を自分で守るためのトレーニングも行いました。



2024年度は9名のスクール生が活動。年間24回の通常講習に加え、各種大会等にも参加



力を合わせて取り組んだマリーナの清掃活動



ライフセーバーの指導による水辺の安全講習会



葉山での通常講習

第33回YMFSセーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖

早春の浜名湖で全国のジュニア・ユースセーラーが競う

3月28～30日の3日間、静岡・三ヶ日青年の家を会場に「YMFSセーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」を開催しました。

大会ではOP初級、OP上級、ILCA4級、ILCA6級の計4クラスが開かれ、全国から集まった14団体・52名（艇）のジュニア・ユース世代のセーラーたちが、早春の浜名湖で日頃磨いた腕を競いました。



全国から14団体・52名（艇）のジュニア・ユースセーラーが出場



OP級・ILCA級合わせて4クラスを開催



第33回セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖は、スポーツ振興くじ助成金を受けて実施しました。

第36回全国児童 自然体験絵画コンテスト

全国の幼稚園・学校・団体から応募総数7,132点

自然の中で発見・体験したことを表現する絵画コンテストです。自然体験の機会を創出するとともに、創作活動を通じて豊かな感性を育むことを目的に実施しています。本年度は全国の幼稚園・小学校・団体等から合わせて7,132の作品が寄せられ、入賞作品24点と入選作品294点を決定しました。審査員長の国広富之さん（俳優・画家）は、「デジタル技術が盛んになっていく中で、自分の手で自分の感情を表現することはとても大切。自然の中でさまざまな体験をし、それを絵にするというこのコンテストの意義は大きい」と講評しました。

なお、入賞作品は当財団ホームページで紹介するとともに、ジャパンインターナショナルボートショー会場及び、国立オリンピック記念青少年総合センターで多くの来場者の目を楽しませました。

- 特別協賛：ヤマハ発動機株式会社
- 協賛：マルマン株式会社、株式会社ワイズギア
- 後援：文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省、一般社団法人日本マリン事業協会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、一般社団法人日本マリナー・ビーチ協会、NPO法人ジャパンゲームフィッシュ協会、独立行政法人国立青少年教育振興機構、一般財団法人日本海洋レジャー安全・振興協会



国広富之審査員長と入賞作品（最終審査会）



スポーツ教材の提供

全国120の幼稚園・学校・団体にスポーツ教材を提供

子どもたちのスポーツ機会の充実を目的に、全国の幼稚園、小中学校、特別支援学校等を対象に展開している「スポーツ教材の提供」に、2024年度は339件の応募が寄せられました。5月8日には（公財）日本スポーツ協会の岩田史昭常務理事兼事務局長による厳正な抽選会を行い、当選した計120の幼稚園や学校、団体にポッチャボールセット、タグラグビーセットを提供しました。

教材の提供先には活用報告書の提出を求め、模範的な活用事例については当財団ホームページで紹介するなど、社会啓発に努めています。



（公財）日本スポーツ協会の岩田史昭常務理事兼事務局長による抽選会

ユニバーサル・スポーツ体験会 チャレンジ！ユニ★スポ

静岡県内の小中学校10校で体験会を開催

「チャレンジ！ユニ★スポ」は、障害者スポーツとして生まれた競技を楽しむユニバーサル・スポーツの体験会です。障害の有無にかかわらず、子どもたちが身体を動かすきっかけとなる“スポーツを好きになってもらう体験機会”として、2024年度は静岡県内の小中学校10校で開催し、児童・生徒、教員合わせて744人が参加しました。



10校で体験授業を実施

調査研究

障害者スポーツの調査研究成果を報告書と記者懇談会で社会に発信

スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的な課題の解決に寄与するため、当財団の特徴を活かし得る分野において調査研究を行い、その成果の社会活用を促進する活動を行っています。

調査報告書「障害者スポーツを取巻く社会的環境に関する調査研究 ～障害者スポーツ選手のキャリア、TV放送、選手認知度に着目して～」を発行。当財団ホームページにも掲載



2025年2月15日、同志社大学東京サテライト・キャンパスで、記者懇談会「東京2020パラリンピック後の障害者スポーツ環境の変化」を開催。報道関係者13名に対し、調査結果を発表した